



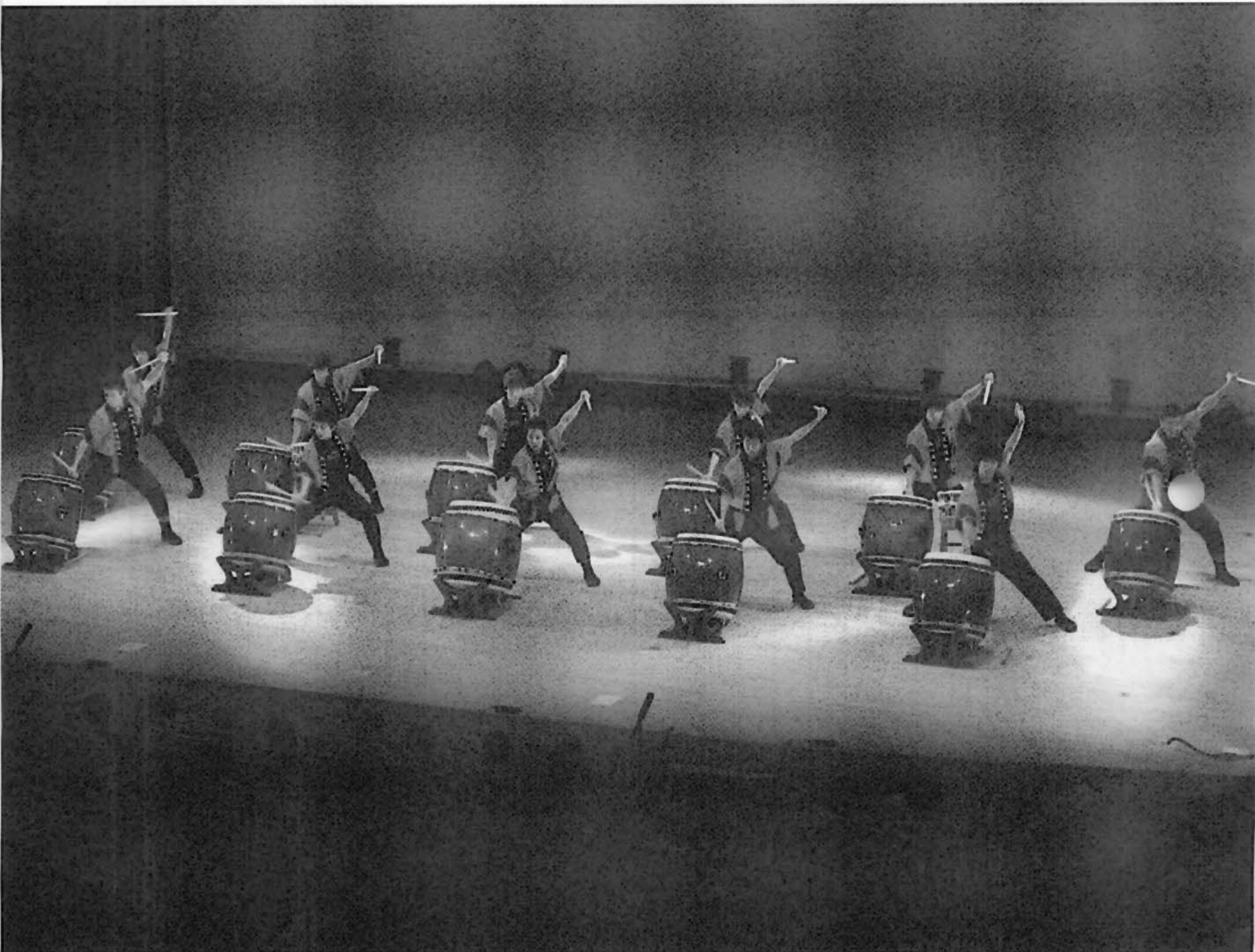
高崎高校同窓会報

2008

第42号

平成20年11月30日

特集／第32回全国高等学校総合文化祭





定期戦前高ののほり

2



ごあいさつ

同窓会会長 原 浩一郎

早いもので今年も残すところあとわずかとなり、高同の銀杏並木も鮮やかに色づいておられます。

同窓の諸兄におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。毎年のことながら、様々な機会に、各界・各方面における同窓生の活躍を見聞することが多いのですが、同窓会といたしましても、誠に心強く、ご同慶の至りであります。皆様のご活躍やご要望に応えられますように、同窓会でもさらに充実した活動を展開してゆく所存であります。今後も、ご健康にはくれぐれも留意されて、益々ご活躍されることをご祈念申し上げます。

さて、今年も後輩たちの活躍や母校の躍進につきまして、文武両面にわたり、戦場や地域の話題として、皆様方も様々な場面で耳にされたかと存じます。昨年度の進学実績はもちろん、インターハイや国民体育大会でも高崎高校の文字をよく見かけました。また、今年には本県で開催されました夏の全国高等学校

総合文化祭でも、総合開会式をはじめ、あらゆる部門で高同生の才能が発揮され、私も同窓の一員として、甚だ喜ばしく、また誇らしく感じたものでございます。

今、世の中は、世界同時株安や原油供給価格といった経済面でも、また政治の面でもきわめて不安定な情勢であります。環境問題や食の安全、救急医療体制についても、私たちは不安を抱えた中で生活しております。混乱する社会はまさに、応援歌「翠巒」にも歌われておりますように、「風雲まさに相呼びて怒涛となりて渦巻」にいたる状態であります。

そんな先行き不透明な時代こそ、物事の本質をしっかりと見極め、何が正しくて何が間違っているかを判断できる力が必要とされます。これらは机上の勉強だけでは培えるものではありません。

わが高崎高校は110年の歴史と伝統のもと、「文武両道」を掲げ、学業だけに留まらない、全人格的教育をおこなってまいりました。

た。毎年開催されている翠巒祭や、今年見事に三連覇を達成した定期戦などといった行事をはじめ、高校生活のあらゆる場面で「人間力」の向上を目指す、決して変わることはない気風があると思います。

こうした変わらぬ伝統を受け継いで、日々学業や部活動に励む後輩たちが、将来、「胸や千尋海神の八重の血潮の高湧きて進む」有為な人材となり、社会の各方面にて活躍し、高崎高校が益々発展することを期待してやみません。

そのためにも、本同窓会はその活動をより一層充実したものと、母校の発展のために惜しみない支援を行なってまいりたいと考えております。会員の皆様におかれましては、本同窓会の活動に対しまして、倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

(原代表取締役会長)

(株)ぐんべい代表取締役会長 56期



いっしょに

学校長 藤倉 新一

昨年度110周年を迎えた本校は、当然のことではありましようが今年度創立111年目を迎えました。数字で表せば一が三つ並ぶ年であり、文に武に何事にも一番を目指し意気上がる年にしていこうと新しい年度をスタートしました。年初にはだるまの目入れが恒例になっていますが、そのだるまには時々の目標を反映した四字熟語を書き入れてもらっています。今年は初代澤柳政太郎先生の書「意気壯」からいただき「意気軒昂」としました。

春の高校総体では、学校対抗において残念ながら痛恨の10位に甘んじてしまいました。秋に行われた前橋高校との定期戦においては昨年に続き僅差での勝利をものにし見事三連覇を達成することができました。学校全体としてみれば大いに意気が上がっているものと思っています。

今年の夏には、本県を会場として全国の文化活動のインターハイとも言われる第32回全国高等学校総合文化祭が開催されました。初めて皇室のお成りをいただいての総合開会式では全県の生徒を束ねる生徒実行委員会委員長の本校三年生大塚君が、知事や県議会議員に劣らぬ堂々の挨拶を披露し、喝采を浴びました。他にも運営の要所要所で多くの高同生の活躍が見られた大会でありました。

話は変わります。赴任2年目を迎えて、この間どうにも「校章」のことが気に掛かっていました。創立60周年の折に制定され校旗をはじめ帽章や釦等に使用されてきた、この会報の表紙にも使われているあの校章のデザインのことです。七つの三角形を高の字になぞらえて並べた、実に単純明快、秀逸、一目で高同だと分かるものでありますが、使われる場面や印刷物などによって微妙に（あるいは大胆に）違っているのです。それらしいものはだれにでも容易に描けてしまいうような構成の単純な故に様々な重流（？）が生まれてきてしまったのだらうと思っています。

今後のこともあり、統一した校章をいつでも再現できるようにするため、同窓会副会長でデザイナーでもある、大木紀元氏にリデザインをお願いしました。早速、この会報の表紙に使わせていただきましたが、いずれ様々などころで使われることになるでしょう。楽しみにしていただければと思います。

最後になりますが、同窓諸氏の益々のご発展ご活躍をお祈りするとともに、今後とも母校の更なる発展のためご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



校章の統一

同窓会副会長 大木 紀元

1957年（昭和32年、本校創立60周年を迎えるにあたり、草野心平作詞、芥川也寸志作曲で新校歌が制定された。この機会に新校旗も制定してはということになり、美術の時間に（当時は美術と音楽のどちらかを選択）美術担任の塚田亭先生が生徒（57・58・59期）に原案を考えさせた。約千点の提案があり、その中から三十数点を第一次選考した。提案はTHSを图案化した案が圧倒的に多かった。THS案の中で優れたものを何点か選び本校OBの图案家古井土清三郎氏（24期）にまとめを依頼した。

ところが作品が届いた時点で校旗以外帽章にも使用案が浮上。帽章使用となると欧文3文字では収まりが悪いのではなにかという意見もあり、欧文案は最終決定にいたらなかった。

そこで美術に造詣の深いOBの井上房一郎氏（15期）が知人の建築家アントニン・レーモンド氏（後に群馬音楽センターを設計）に相談。高の一字を図形化した当時2年生の案を生かして、複数の三角形で高を表現した帽章が提案され、それを丸で囲った地色がセルリアンブルーの新校旗が誕生した（制定は1958年4月）。

ただ、この新校旗と帽章の制作にあたって専門家が関与していなかったため、使用マニュアル等も作成されておらず、

使用する度に担当者か職人のセンスで形状が改変され続け、当初より完成度の高い良い図形になっていくものもあるが、使用する度に異なった図形の校旗校章であつてはまずいという、もつともな意見が多々噴出していった。

新校旗制定以来50年、本校校長にOBの藤倉新一先生（68期）が就任され、「このまま放置しておいてよいのだろうか」という相談が当方にあつた。

早速、新校旗制定以来今日まで、50年間に制作された校旗や印刷物の中から7、8点の校章を抽出し、同一サイズにプリントして、「いずれが高同の校章であるか」判定を仰いだ結果、初期原案を選ぶもの皆無であるばかりでなく、さりとて特定の図形に解答が集中することも無く、まさに曖昧模範たるイメージの高同のシンボルマークであつた。

そこで、半世紀の間に醸成された校章のイメージを残しながら、格調高い造形となるよう微妙な調整を繰り返して、俊英若鷹が飛翔する勇姿が彷彿されるようなデザインに仕上げた（表紙参照）。

また、誰がいつ何に使用しても、統一された校章が簡単に再現できるようデザインをデータ化し、使用マニュアルも作成した。いささかなりとも母校のお役に立てれば幸甚である。

（株式会社セレレ取締役会長 58期）



特別寄稿

日本農業の現状と再生への道

遠藤 功

(まえがき)

私は、平成9年3月1日付発行の「前高—高高度定期戦50回記念誌」に生徒会長を務めていた昭和34年の定期戦の思い出についての掲載を要請され、当時の高高度の状況を物語る所感を含めた文章を載せていただきました。

こうした経過を踏まえ、今回の特別寄稿は、発想と視点を思い切つて変換させ、現在の社会状況の中で我々がしつかり捉えておくべき問題の一端について述べてみたいと思います。

我々人間にとって、食料の安心・安全な確保とそれを土台から支える農業の継続的発展は、死活問題ともいふべき重要度をもった必須の課題です。ところが現在、日本の食料と農業は、新たに深刻な危機に直面しています。

わが国の食料自給率は、世界でも異常な39%にまで低下してしまいました(日本を除く先進11カ国の平均は103%—農林水産省資料)。耕作放棄を余儀なくされた農地は全耕地の一割近く(埼玉県の総面積に相当)にも達し、農業にたずさわる人の45%が70歳以上という「高齢化」が進行しています。しかもこの間、農産物価格は暴落を続けています。

また最近、残留農薬やカビなどが混入した輸入汚染米転売問題で、「事故米穀」(汚染米)を「主食用」として売却することが容認されていたことも明らかにされました。

こうした食料の安全が損なわれる事態と日本農業の今日の困難は、戦後続けられてきた農政によりつくりだされたものです。

この間の農政の「罪」とも言うべき重大な問題は、食料輸入自由化路線のもとで国内生産を縮小し、アメリカや大企業の言いなりに、国民の食料を際限なく海外に依存する政策をとり続けてきたところにあります。

わが国の農業を「やっかいもの」扱いにする方針によってわが国の食料自給率は世界の先進国に類のない水準にまで低落し、農業総産出額は96年の一〇兆三千億円から06年には八兆三千億円へと、わずか10年の間に20%も減少しました。95年からは、もともと100%自給可能な米まで、農家には減反を押しつける一方で大量輸入するということさえおこなわれてきました。

さらに、農家の経営とくらしを支えるためにどの国も力を入れている農産物価格保障対策や経営安定政策が放棄されてきました。こうした中で農業のかけがえのない担い手が土

台から突き崩されてきました。

以上、わが国の食料と農業の深刻な実態、および、農政の抜本的転換が焦眉の課題になっていることの一端を述べてきました。

こうした状況の上に立つて、日本農業の再生プランの政策的柱とも言うべき事項について提言をおこないたいと思います。(紙面の関係でポイントだけです。)

「食料自給率の向上を真剣にめざし、安心して農業にはげめる農政への転換を推進する」ことを中心課題に据えることを前提に—

(提言1) 持続可能な農業経営の実現をめざし、価格保障・所得補償制度を全面的、抜本的に充実させる。

(米だけでなく、麦・大豆・畜産・野菜・果樹なども対象に入れる。)

(提言2) 家族経営を維持するとともに、大規模経営を含む担い手育成で農地を保全する。

(提言3) 関税など国境措置を維持・強化し、「食料主権」を保障する貿易ルールを追求する。(食料を市場まかせにしない。)

(提言4) 農業者と消費者の共同を広げて、「食の安全」と地域農業の再生をめざす。(輸入食品の検査体制、農産物・加工品の監視体制の強化。)

(団休役員 59期常任理事)

特別寄稿

ご健在の 石坂富司先生

永井 憲一



1945年（昭和20年）の夏に、終戦を迎えた。旧制高崎中学の2年生だった。当時の高中には、中曾根宇内先生（数学）など戦前からの諸先生が多くおられたが、戦後の復員軍人が教職に就かれた何人かの先生もおられた。大塚雅彦先生や石坂富司先生たちだ。その先生方の授業は、共通して自らの戦争体験から戦後の平和主義や地主主義を讃美し、そのあり方について教壇から熱っぽく語られた。とても印象深い。

その大塚先生は、戦後の教科として新設された「社会科」の授業の中で、ご自分が東大の学生時代に学ばれた川島武宣教授の「日本の社会の家族的構成」（日本評論社）の内容を詳細に紹介されながら、戦前の日本は神格天皇制を頂点とする「国家」で、それへの忠君愛国の思想を強制して来たことを鋭く批判された。ちょうど当時、日本国憲法が国会で審議中であり、その推移を毎回、詳細に紹介された。私も戦争中の空襲で家を焼失

し、長兄が戦死したなどの体験から、この授業には大いに関心をもち、それが、その後に私が憲法研究者への道を歩む契機となった。

もう一人の石坂先生は「西洋史」のご担当だった。背が高いので諺名は「ロング」。やはり先生も、ソ満国境警備や済州島の野戦などの軍人体験をされ、戦友の殆どがレイテ島で玉砕したのに、幸運にもご帰還になられた。その石坂先生の授業は、また変った特長をもっていた。

3年間も継続してご担当になったためか、最初の2年生を対象とする「西洋史Ⅰ」では、大筋の通史を講義されたが、翌年の「西洋史Ⅱ」では、殆ど通年、ギリシャや文化史に限定され、また翌年の「西洋史Ⅲ」では、殆ど通年、キリスト教史に限定された内容を詳細に語られた。それを平然となされ、



橋本旬平 木戸信一 松本登久男 永井憲一 藤平国数
新井章 石坂富司先生 大塚雅彦先生 福田薫先生

まるで大学での講義の様だった。私は、その「西洋史Ⅱ」を受講して、ホメロスの叙事史やプラトンの理想国論などを詳細に聴講した。が、ある時に授業中「先生、この分では、西洋史の近代にまで及びませんね」とお訊ねしたことがある。そのとき先生は「概説は去年済んでいます」「歴史の見方

は多種あるので、通史の年代などは自分で勉強しなさい。歴史の見方を学ぶのが本当の勉強なのです」とお応えになった。しかし先生は「あの質問は、とても印象的だった」と今でもお話しになる（第49期同窓会読書記念号「乗附野の賦」8頁）。その際の私は、妙に素直に納得した。それ以降、勉強（ものを覚える）と研究（事実の解明）の統合をめざして、ルソーやモンテスキューに関する書物などの多読が始まった。その後の私を研究者の道へと導いて下さったのも、想えば、あのときの先生のあのお言葉だった、といま思う。

石坂先生は、その後に上京され、小石川高校の教頭や八王子東高校の初代校長などを務められた。が、相変わらず研究者的思考がお強く、多くの大学の研究者が集る歴史学会に所属し、その学会誌に寄稿された数多くの論文を一冊の「石坂富司論文集」として纏め、出版もしておられる。また一方昨年は歌集「戦争と平和を」も出版され、こ

れは読売新聞の多摩版（07年12月17日）の「ひと十字路」の欄に「米寿の記念に歌集を出版された石坂富司さん」として、最近の先生の写真入りで大きく掲載、紹介され

ている。その大塚・石坂先生に福田薫先生を囲む会で、在京の有志、新井章、藤平国数、橋本旬平（48期）、木戸信一と私（49期）、山口治夫、

松本登久男（50期）が「在京の先生方を囲む会」を数年継続して来た。しかし最早、その半数以上が物故者となってしまった。（法政大学名誉教授 49期）

ひと十字路

米寿の記念に歌集「戦争と平和を」を自費出版した

石坂 富司さん 88

歌集に収録されているのは、1941年12月8日の太平洋戦争突入から戦後の1951年までの出来事を歌った約350首。マイナ

「生きてまた母の声聞くことありや輸送列車は高崎を発つ」を境として（出征にあたっての一首）

「北の果ての国境なる街にして日本人の手が群れて遊ぶも」

「戦争も平和も多摩乗り越えて米寿の歳も終わらむとする」

（林弘典）

戦中戦後人生つづる



世を風靡した「アララギ」（斎藤茂吉主宰）に掲載された一首。中学時代から短歌を詠み始めた人生の中でも、自慢の作品だ。

「生きてまた母の声聞くことありや輸送列車は高崎を発つ」

1919年（大正8年）、群馬県沼田市生まれ。広島高等師範文科第3部歴史学科卒業。教員となり、静岡県立寛政中学（現・県立静岡南高校）、群馬県立高崎高校、都立千歳丘高校で教壇に立ち、都立豊島高校、小石川高校の教頭を経て、八王子東高校の初代校長。2004年秋から府中市の有料老人ホームに入居。

進学校として知られる都立八王子東高校の初代校長を務め、同校PTA有志で組織する「しらかし短歌会」の会長でもある。2か月に1回の歌会を何よりの楽しみとして通ってきたが、現在は府中市内の有料老人ホームで生活し、足も不自由となっているため、寄稿だけの紙上参加となっている。

歌集の出版は、「米寿の記念にむく」との仲間間の熱心な後押しによって実現した。

特 別 寄 稿

あれから四十年

三木 則之



高一から高二にかけてのことだったと思う。とてつもない死の恐怖に襲われて眠れぬ夜が続いたが、そこから逃れたいがために、小説や現代詩を読み耽った記憶がある。とりわけA・カミュには強い影響を受けた気がする。また漢籍の奥深さに目覚めたのも、同じ時期だった。

その一方で、英語部の仲間とバンドを組んで、ビートルズやGS、オリジナル曲を演奏していた。なにしろあの頃は、全国の高校・中学にエレキ・バンド禁止令が出ていた時代である。GSの演奏会場に出かけたり、バンド・コンテストに出演しただけで、停学のみならず退学にまでなった生徒がいたのだ。しかし高々では、そんな話は全く聞いたこともなく、翠巒祭で堂々とバンド演奏を披露していたのを思い出す。なんとまあ、おらかな校風であったことか。(今から思えば、当時使用していた機材は、まるで原始時代のもののようには感じられるが。)

あれから40年、私は文学と音楽に携わりつつ(それに少々の飲酒をプラスして)日々を生きている

が、その礎となったのが、まさしく高々で過ごした時期なのである。…なんのことはない。とどのつまり、40年間ほとんど同じことをしながら暮らして来たわけだ。これには、ただあきれるばかり。そして1968年に17歳であつたという奇蹟に、ひたすら感謝するのである。

(河合塾講師・

音楽家(吉野大作) 69期)



翠巒祭17歳



特別寄稿

高中・高高同窓会の 幹事期を迎えるにあたって

松本 賢一

高高を卒業して早いもので29年。平成22年の高中・高高同窓会の幹事期が近づいてきましたので、これに備えてわが79期の準備活動が始まっています。学年代表の藤田実君や同窓会実行委員長となる竹中隆君を始め、多くの役員が、積極的に運営していることは、本当にありがたい感謝しています。多士済々のわが同期生には、代表して寄稿するにふさわしい人がたくさんいますが、その中で、たまたま「同窓会報に何か書いて」と声をかけられ書くことになりました。

卒業後30年で同窓会の幹事を担うことは、とても良い仕組みだと感じています。同期生それぞれが実績を積み重ねて地位を築き、重要な役割を担っています。その同期生と再び親交を深める機会をもてるのです。このことは必ずや、さらにお互いの人生を深めてくれるものになります。こんな仕組みを作ってくれた先輩達に感謝しています。また、伝統の高中・高高同窓会を盛会に開催するために、同期で協力してまいりますので、是非、同窓生の皆様のご協力を心よりお願い致します。

私が入学した当時は、新校舎と、高高の歴史を刻んだ木造校舎とが

並存していました。新しさとともに古きよき伝統もたつぷりと感じられる恵まれた環境でした。入学式の日には護国神社の桜が満開で、その美しさに感動したことを覚えています。

部活動は、一年次は軟式テニス部でしたが、二年次からは心機一転、友人の影響でマンドリン部に入りました。翠巒祭や音楽センタ―での定期演奏会はとても良い経験でした。大勢のOBの協力により、現役のメンバーだけではなし得ない大編成による大曲に挑戦できたのは素晴らしいことでした。

現在、長男が現役2年生のため、PTA2学年委員長としてお世話になっていますが、行事で翠巒会館に行ったときは、練習中のマンドリン部の生徒が奏でる「草原」など懐かしい曲にしばし聞き入って楽しんでいました。

また、活発な高高のPTA活動ですが、私は行事の後の懇親会を楽しみにしています。その中で、応援歌「翠巒」を歌うたびに高校時代に帰ったように、若かりし頃の気持ちにすぐになれるのは不思議なほどです。子供たちの高校生活の充実をバックアップするのが趣旨ですが、どうやら私自身が二

度目の高高時代を楽しませてもらっているようです。

さて、私の近況ですが、平成15年に新町町議会議員となり、その後いわゆる平成の大合併を経て、市議会議員として活動しています。本会報の第40号に、当時の高崎市議会議員で77期の松本基志先輩が寄稿され、市町村合併にも触れていました。私は編入した新町の議員として合併に関わりました。このときは高校時代高高で過ごしたことが大いに役立った、と思っています。

現在高崎市は、平成23年4月の中核市移行に向かい、着々と施策を展開しています。国と地方自治体の関係が再構築され、基礎自治体の役割がさらに増している今、本当に合併できてよかったと考えています。また、これからも高崎市が夢の持てる都市として発展するために、多くの同窓の皆様のご指導・ご協力をいただきながら、全力で取り組んで参りたい、と考えています。

最後になりましたが、一人の卒業生として、母校の永遠なる繁栄を祈っています！

(高崎市議会)

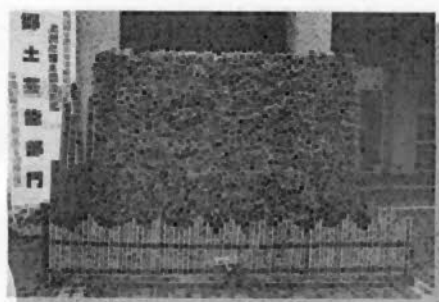
教育福祉常任委員会委員長 79期



器楽・管弦楽部門 会場風景



器楽・管弦楽部門
生徒実行委員長 進水颯行(3年)(左)、
実行委員 野尻智史(2年)(右)



郷土芸能部門



囲碁部門



第32回全国高等学校総合文化祭群馬大会は、47年に1度の地元開催ということもあり、大勢の人々の支えの中、盛大に行われた。その中で私は生徒実行委員長という立場に立ち、この機会に恵まれなければ絶対に経験できないような活動を数多くさせて頂いた。

高高生も含め全国からおよそ2万人の高校生が参加したこの「ぐんま総文」は、その規模の大きさゆえ、裏でのスタッフ達の苦勞には並々ならぬものがあり、総文祭の成功のために働きかけてくれた彼らには感謝が尽きない。この役職に就くことによって自分が成長できたということはもちろんだが、そういった自分にとっての有益性よりも、実行委員達、関係者の方々、会場へ足を運んでくれた来場者の方々等、本当にたくさんの人と関わりを持てたという経験そのものが一番の財産であると心の底から思える、そんな活動ができたことがまさに自分にとっての誇りである。

ぐんま総文に携わってくれた全ての人々に感謝するとともに、自分にとって高校生活の大きな割合を占めるものとして一生残るであろうこの大会が、他の多くの人の心の中にも、いつまでも残ってくれることを願っている。(大塚俊一)



大塚委員長 開会宣言

特集

第32回全国高等学校総合文化祭

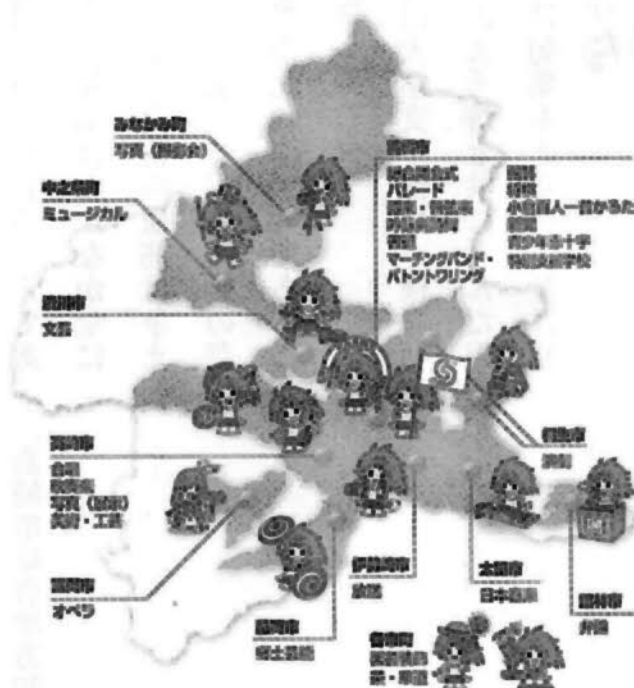
8月6日(水)から10日(日)にかけて、第32回全国高等学校総合文化祭が県内各地で開催された。これは「文化部のインターハイ」とも呼ばれる全国の高校文化部の祭典であり、全国から2万人の高校生が集まり、公式部門18、協賛部門6の計24部門に分かれて、大会テーマ「上州に舞え創造の風」のもと、日頃の成果を発表した。

本校からは、生徒実行委員長として3年の大塚俊一君が、総合開会式で、秋篠宮同妃両殿下並びに眞子内親王殿下のご臨席のもと、堂々たる挨拶をおこなったほか、郷土芸能、吹奏楽、楽器・管弦楽、写真、放送、囲碁、将棋、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、オペラの諸部門で生徒や職員が参加した。

大会の概要

「ぐんま総文」とは、第32回全国高等学校総合文化祭群馬大会のこと。全国から2万人の高校生が集まる「文化部のインターハイ」と呼ばれる大会です。平成20年8月6日(水)～10日(日)まで5日間にわたり、演劇、合唱、吹奏楽、書道、写真、文芸など24部門、県内9市2町20会場で、高校生の文化部のコンテストや発表会が行われます。

出演はもちろん、大会運営も全て高校生が創り上げる大会です。8月6日にぐんまアリーナで開催される総合開会式には、出演者、スタッフ、観客、合わせて5千人が集まり、その後前橋市街地で出演者2千人のパレードを行います。「ぐんま総文」は一般観客合わせて15万人規模の大会です。



開催基本方針

創造～風を起こそう

高校生が伝統文化を継承し、みずみずしい感性と若さあふれる情熱により、新しい文化を個性豊かに創造できる大会にします。

交流～風を受けよう

全国及び海外の高校生が、文化芸術活動による心の交流を通して、互いに理解を深め、友情と親睦の輪を広げられる大会にします。

飛翔～風になろう

参加者全員が一体となり、感動を共有することで、次代の文化の担い手として自信と誇りをもって、未来や世界へと羽ばたける大会にします。

特別寄稿

今昔往来

石井 敬之助



昔、桂木洋子という女優がい

た。私は彼女の大ファンであつ

た。その彼女が作曲家の黛敏郎

氏と結婚し、さらに、銀幕から

引退してしまった。後年、敏郎

氏の御尊父が高崎中学第17回、

大正7年3月卒業の黛千尋氏で、

英国系商社ドットウエル（本社

ロンドン）の日本総支配人を務

めた人物であることを知った。

千尋氏の友人に高崎中学同期の

田中友次郎氏（元県立高崎女子

高等学校校長）がいる。千尋氏

について田中氏は、「千尋君

はわが同窓の成功者の一人であ

る。―日本舞踊はなかなか堂に

入っている。芸術の血筋は争え

ない。」と記して、敏郎氏の芸

術的才能が父親ゆずりであるこ

とを示唆している。

早稲田大学文学部で、横光利

一や中山義秀等と共に学んだ田

中氏には句集もある。俳号は悠

人であった。

地酒よし山女またよし映の宿

悠人

小駅の駅長短軀麦の秋

赤のれんはたはたと鳴り雛の市

そして、友次郎氏のご子息が、

我々高同50会の田中彰君（故人）

であった。

平成19年3月、ある全国紙に

元女優、桂木洋子（黛住恵さん）

の訃報が載っていた。

享年76才であった。

（高崎市総合地方卸売市場

市場長 50期）

高崎高校出身獣医師全員集合

高橋成東

去る7月6日、高崎市内のホテルにて、

高崎高校出身獣医師の懇親会が開催され

ました。群馬県在住の、47期から100

期までの18名が出席し、楽しいひととき

を過ごしました。

現在、群馬県獣医師会会員は、開業会員

229名、勤務会員287名、その他22

名の合計538名からなっています。

獣医師の職域は、畜産から愛玩動物の

ペットまで、広範囲に及んでいます。高

崎高校出身獣医師は22名ほどですが、多

岐多方面にて活躍しております。

最近、食品の安全安心が偽装等により

社会問題になっています。これを監督し

ているのが、群馬県食品安全局長・長井

章（67期）、同衛生食品課長・信澤敏夫

（68期）、獣医師ではありませんが、同

食品安全課長・高橋真（71期）と、高崎

高校同窓生は活躍しています。

また、群馬県獣医師会は本年60周年を

迎え、記念事業を中心となつて行うのが、

群馬県獣医師会会長木村芳之（72期）です。

宴たけなわになり、翠轡を元応援団の

添田博（70期）の音頭にて大合唱しまし

た。最後に、後輩は先輩に気を遣い、先

輩は後輩にお金を使い、和氣藹々のうち



同窓会だより

同窓会
だより

卒業50年の集い

石井 清一

高高57期の我々が在学したのは、昭和30年4月から33年3月でした。戦後の混乱も落ち着き、わが国の高度経済成長が始まった頃でした。ラグビー部が国体で二度目の優勝を飾ったのを筆頭に、運動部も全盛で柔道、バスケット、軟式庭球、陸上部それに柔道部掛持ちの相撲等、全国大会に出場したものです。3年生時が創立60周年にあたり、路面電車の軌道が撤去され拡幅工事が進められていた市内を全校生で提灯行列しました。この時に今の校歌が制定され、その発表会で作詞者の草野心平氏が「いつかこの歌が甲子園原頭に響き渡ることを」と熱く語り、私たちの共感を呼びました。というのも、野球部は秋の関東大会、夏の北関東大会とともに決勝戦で敗れ、甲子園目前に無念の思いをしていたからです。

卒業後は、57期代表幹事の山口

保男君を中心に、泊まりも混えて数年に一度の割合で同期会を催してきましたが、同期生の上野公成君が国政に参画するようになってからは、激励応援の会等を年一度は開催し同期生の集まる機会も多くなっています。また京浜地区でも時折り集まりが開かれ群馬からも有志が参加しております。特に、満50才時の「半百歳の集い」は盛況でした。

今回の卒業50年を記念しての集まりは、6月7日伊香保温泉で開催しました。卒業時355名だった同期生も判明しているだけで40名が故人となつています。当日の参加者は53名でした。会は冒頭物故された恩師や同期生に黙祷を捧げてはじまりました。高々出てから50年、多くの者が久しぶりの再会です。お互いあまりの変わり様に、高々に入學した時のような戸惑いさえ感じる程でした。「お主

は誰だ、俺が判るか」等のやりとりがそこかしこではじまり、やがて手を握り合い肩を抱き合う姿が随所に見られました。卒業アルバムをスライドにして映写した時は酒の酔いも手伝って、自分のことは棚に上げ旧友の変貌ぶりをからかい大いに盛り上がり、気分はすっかり高々時代に戻っていました。最後は定番の「翠巒」。円陣をつくり肩を組み、やや張りを失った蛮声とはいえ、それぞれの50年の思いを込めた熱唱は、なんとも郷愁に満ち切々と心に響き涙も滲む翠巒でした。幾つになっても高々は我らの心のふるさと、永遠の青春です。60年の集いも元気にやろうと誓い合い、有志は翌日ゴルフに興じて散会しました。

(卒業50年の集い実行委員長

鳥川流域森林組合長 57期)



高高57会(卒業50年記念) 平成20年6月7日 於伊香保温泉「本谷旅館」

同窓会本部から

◆翠樹セミナー

●第1回(通算57回) 平成20年6月14日(土)

①「意氣壯き十七歳 ―翠樹の文人たち―」

吉永 哲郎 氏(54期)

●第2回(通算58回) 平成20年10月18日(土)

バイオリンコンサート

エルンスト・レスター氏

(かぶらフィルハーモニー管弦楽団団長、高崎フィルハーモニック・ソサイエティ・オーケストラ音楽監督)

◆本部活動報告

1月9日(水) 会計監査会

〆11日(金) 第1回本部幹事会

〆19日(土) 第1回常任理事会

〆26日(土) 第106回総会

3月24日(月) 第2回本部幹事会

4月26日(土) 第2回常任理事会

5月18日(日) 第15回ゴルフ大会

6月23日(月) 第1回理事会

8月26日(火) 第3回本部幹事会

9月20日(土) 第3回常任理事会

11月26日(水) 第2回理事会

◆財団法人翠樹育英会人事

4月21日(月) 第43回理事会が開催され、原 浩一郎理事長(56期・同窓会長)が辞任し、佐藤和徳副理事長(57期・同窓会副会長)が理事長に、大木紀元理事(58期・同窓会副会長)が副理事に選出され就任しました。

平成二十年度 褒章・叙勲受章者(敬称略)

〈春〉 旭日中綬章 松沢 睦(47期)

旭日小綬章 横田 英一(50期)

瑞宝双光章 宮下初太郎(46期)

〈秋〉 瑞宝重光章 吉田 洋二(50期)

瑞宝小綬章 岡田 文平(46期)

瑞宝小綬章 町田 宗宏(54期)

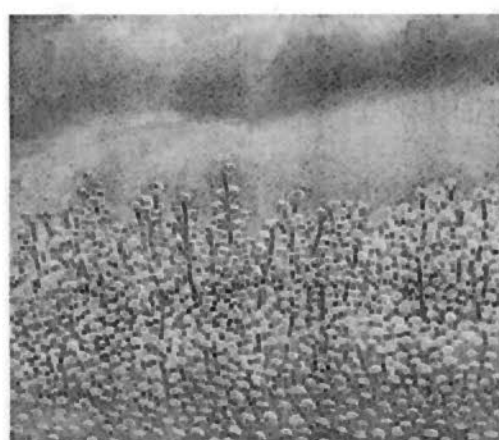
瑞宝双光章 土屋 洸(50期)

旭日小綬章 竹田 章治(54期)(平成19年度)

(注) もし漏れがありましたら、恐縮ですがご連絡ください。

卒業生の作品紹介 23

中島 榮一郎
(歯科医師)
中島矯正歯科クリニック院長
82期



《想ひ 53cm×45.5cm 日本画 1998》

『私の作品』
「想ひ」
—司馬さんによせて—

毎年、2月12日には司馬遼太郎氏の命日「菜の花忌」が巡ってくるが、私にはとりわけ1996年のその日が心に染みる。

訃報を聞いて東大阪の司馬さんのお宅に伺った。中庭に面した書斎に司馬さんは静かに眠っていた。胸の上にはもう掛けることのない黒い太縁のメガネが置かれていた。庭一面に開いた窓のガラスを通して射し込む冬の陽が、菜の花の黄に映えて部屋一杯に飛びかい、司馬遼太郎の精神活動は司馬さんの元を離れてしまっ

たことを告げていた。

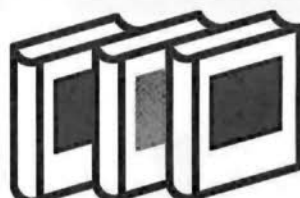
—菜の花を 愛でし人逝き
ちよくの酒

現し香れよ臘月—

◇尚、この作品は1998年銀座和光で開いた私の初の個展に出品した。時の小淵恵三総理の政務秘書官が同期の古川俊隆君であったことから、個展会場にもご来駕いただいた。総理が司馬作品の愛読者である、とお聞きしたのでこの作品を公邸にお届けした。総理在任中は公邸に掛けていただいていたが、現在は千鶴子夫人がご自宅で楽しんでいらっしゃる、とお聞きする。—



～すいらんぶんこ～
戀文庫
BOOK



平成19年10月1日～
平成20年9月30日

●著書

- [養生健康法シリーズ] NO.1
実用 養生学講座 [10講]
- [養生健康法シリーズ] NO.2
呼吸法の極意 腸管呼吸 [付] 脳脊髄管呼吸
- [中国伝統医学シリーズ] NO.2
中国伝統医学で健康になれる —中国伝統医学は人類の宝だ—
- [中国伝統医学シリーズ] NO.10
—ひとりで学べる— 明解 中医針灸学
- 気功ウォーキング
- 1日1言 《人生警句集》
- 《現代食養生学》
—世界諸民族の伝統食生活に学ぶ—
- 《養生福祉レクリエーション論》
—中国伝統医学を福祉の充実に生かす—
- 壁を壊す
—7年で経営利益を10倍にした老舗企業の破壊的革命

●作者

- 飯野 節夫 (52期)
- 飯野 節夫 (52期)
- 飯野 節夫 (52期)
- 飯野 節夫 (52期)
- 飯野 節夫 (52期)
- 飯野 節夫 (52期)
- 飯野 節夫 (共著) (52期)
- 飯野 節夫 (共著) (52期)
- 吉川 廣和 (60期)

◆翠戀文庫について◆

翠戀文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

母校だより

■各部の活躍・活動

インターハイに出場して

陸上競技部 黒澤 太郎

顧問の田島先生の「量より質」という最善の指導のおかげで、北関東1位、インターハイ11位、国体8位入賞という自分1人では決して成し得なかった結果を出すことができた。しかし、近年稀に見るこの結果をあまり評価してくれない人もいる。でも自分だけは自分をしっかりと評価したい。そして、今後も自分で自分の道を切り開いていきたい。

柔道部 池田 貴紀

努力することが好きになれた高校生活でした。高校生活は柔道と言える日々を送る中で、結果も残すことができました。これは先生方や、家族、仲間、OBの方々の支え無くして出来ることではないので、心から感謝しています。才能の無い人間がこうした文章を書かせて頂けて、自分は本当に幸せ者だと思います。今後は、恩返しできるように自分の使命を全うして行きたいです。

柔道部 井上 登志晴

私は、今年度の全国大会で90kg級ベスト16でした。

私が、この成績を収めることができたのは、顧問の鳥居先生の御指導の下、先輩方やOBの方々に稽古をつけて頂き、そして周りの方々の支えがあったからだと思っています。この事を忘れず、初心も忘れず日々精進し来年度の全国大会では優勝を目指したいと思いますので今後とも応援よろしくお願い致します。



SPORTS

運動部

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

剣道部

- ①1回戦 高崎3-0 洪川青翠
- 2回戦 高崎1-2 商大附
- ③1回戦 高崎0-4 前橋育英

弓道部

- ⑦西毛地区大会
- 団体(福田・戸塚・松浦) 第3位
- 個人(松浦悠司) 第4位

硬式野球部

- 春季関東地区高等学校野球大会群馬県予選
- 2回戦 高崎12-3 (8回) 藤岡北
- 3回戦 高崎0-5 桐生第一
- 全国高等学校野球選手権記念群馬大会
- 2回戦 高崎7-3 端恋
- 3回戦 高崎3-4 桐生第一
- 秋季関東地区高等学校野球大会群馬県予選
- 2回戦 高崎11-7 伊勢崎清明
- 3回戦 高崎0-1 利根商

サッカー部

- ①2回戦 高崎10-3 館林商工
- 3回戦 高崎3-0 農大二

山岳部

- ①団体 4位
- ⑦群馬県高等学校クライミング選手権大会
- 個人 西野敬祥 3位
- 山田昇登山競走大会 三枝照雄の部
- 個人 西野敬祥 3位
- ④4回戦 高崎1-5 桐生第一(ベスト16)
- ③2回戦 高崎9-0 中之条
- 3回戦 高崎4-0 関学大附
- 4回戦 高崎1-4 高経附(ベスト16)
- ⑥トップリーグ
- 高崎0-0 前橋商
- 高崎3-2 前橋育英
- 高崎1-3 桐生第一(1勝1敗1分 第3位)
- ⑦全国高校サッカー選手権大会群馬県予選
- 決勝トーナメント 高崎4-3 前橋
- 高崎0-3 高経附(ベスト8)

柔道部

- ①個人 池田貴紀 優勝
- 井上登志晴 ベスト4
- 団体 ベスト8
- ②団体 出場
- ③団体 池田貴紀 出場
- ベスト8
- ④個人 池田貴紀(81kg級) 優勝
- 井上登志晴(90kg級) 優勝
- 清水克高(66kg級) ベスト4
- 井上登志晴(90kg級) ベスト16
- 池田貴紀(81kg級) 出場

水泳部

- ①個人
- 柳 義裕 100m自由形 3位
- 柳 義裕 400m自由形 4位

⑥個人
高橋直樹 五十m自由形 4位

⑦関東大会県予選

個人

柳 義裕 四百m自由形 4位

柳 義裕 千五百m自由形 3位

団体

四百mメドレーリレー(柳小林・塚越・高橋) 6位

四百mリレー(柳・塚越・小林・高橋) 8位

ソフトテニス部

①団体 2回戦 高崎3-0育英

3回戦 高崎1-2太田(ベスト16)

個人 小堀・樋口組 優勝

齊藤・佐藤組 ベスト8

折田・剣持組 ベスト16

小堀・樋口組 5位

齊藤・佐藤組 2回戦

折田・剣持組 2回戦

③団体 2回戦 高崎3-0利南

3回戦 高崎2-0前南

4回戦 高崎2-0青翠

準決 高崎1-2高商(第3位)

個人 小堀・樋口組 優勝(インハイ)

④個人 小堀・樋口組 4回戦 ベスト64

⑤個人 小堀・樋口組 関東ブロック4位

⑥団体 2回戦 高崎3-0藤工

3回戦 高崎2-1伊市高

4回戦 高崎0-2沼田(ベスト8)

個人 乾・茂木組 ベスト16

卓球部

①シングルス 中里見達也 ベスト64

1回戦 高崎3-0中央中等

2回戦 高崎3-0万場

3回戦 高崎0-3伊商(ベスト16)

③団体 1回戦 高崎3-0勢農
2回戦 高崎1-3太工

⑦県強化大会

シングルス 清水一輝 ベスト64

テニス部

①団体 ベスト16

③ダブルス 高橋・秋谷 ベスト16

団体戦 ベスト16

⑥団体戦 ベスト16

軟式野球部

①1回戦 高崎0-7前橋商

①夏季大会

1回戦 高崎1-2前橋工

①秋季大会

1回戦 高崎0-2前橋育英

バスケットボール部

①1回戦 高崎75-49桐一

2回戦 高崎112-42勢多農

3回戦 高崎108-78前西

準々決勝 高崎103-104樹徳(第5位)

⑦群馬県高等学校バスケットボール選手権大会

兼全国高等学校総合体育大会予選会

1回戦 高崎168-5下仁田

2回戦 高崎112-42関学

3回戦 高崎90-75桐生

準々決勝 高崎82-90育英(第5位)

①全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会群馬県予選会

2回戦 高崎97-20利根実

3回戦 高崎93-46高崎北

4回戦 高崎104-74前橋西

準々決勝 高崎85-58太田

準決勝 高崎64-82高崎商(第3位)

バドミントン部

①団体

2回戦 高崎0-2新島学園

③2回戦 高崎1-3渋川

⑦高校生バドミントン大会

シングルス 田中雅大 3位

井田裕章 5位

バレーボール部

①4回戦 高崎1-2桐生(ベスト16)

③2回戦 高崎2-0樹徳

3回戦 高崎2-0勢多農

4回戦 高崎2-0前南

準々決勝 高崎0-2伊勢崎(ベスト8)

⑦西毛地区大会

2回戦 高崎2-0藤岡中央

準決勝 高崎2-0高崎工

決勝 高崎2-0明和県央(優勝)

ラグビー部

①少人数制の部 優勝

予選リーグ：ブロック第1位

高崎27-0高工

高崎53-0洪工

決勝トーナメント 高崎48-0合同(洪川・富岡・育英)

準決勝 高崎33-12伊勢崎興陽

決勝 高崎46-0関東学園大附

③全国高校ラグビー大会県予選会

群馬県高校ラグビー選手権大会

1回戦 高崎29-0桐生第一

2回戦 高崎26-5太田

準々決勝 高崎5-71明和県央(ベスト8)

⑤群馬選抜チーム

加藤 耀

佐藤聡太

陸上競技部

①小林 幹 百m 6位

関口頌悟 五千m 4位

関 祐輔 三千mSC 5位

鈴木良太 ハンマー投 5位

黒澤太郎 やり投 5位

黒澤太郎 八種競技 2位

男子総合成績 第10位

②③小林 幹 百m 組7位

関口頌悟 五千m 17位

関 祐輔 三千mSC 9位

鈴木良太 ハンマー投 16位

黒澤太郎 やり投1位

④黒澤太郎 やり投 11位

⑤黒澤太郎 やり投 8位

⑥馬場章人 百m 6位

古市真也 八百m 2位

山口聡久 千五百m 5位

関口頌悟 五千m 3位

久留飛遊寿 百十mH 5位

根岸佑希 三千mSC 2位

大小原俊 五千mW 5位

四×百mリレー(瀬下・久留・馬場・真鍋) 8位

大澤佑太 走高跳 7位

梅木悠輔 三段跳 1位

金子 寛 やり投 3位

⑦群馬県選手権大会兼国体予選

和田財吹 一万m 5位

関 祐輔 三千mSC 4位

根岸佑希 三千mSC 5位

①関東陸上競技選手権大会

和田財吹 一万m 5位

関 祐輔 三千mSC 4位

根岸佑希 三千mSC 5位

①学校対抗

小林 幹 百m 5位

古市真也 八百m 8位

関口領悟 五千m 3位
久留飛遊寿 百十mH 8位
関 祐輔 三千mSC 1位
根岸佑希 三千mSC 8位
大小原俊 五千mW 8位
四×百mリレー(黒澤・久留・小林・馬場) 4位
大澤佑太 走高跳 7位
梅本悠輔 三段跳 3位
黒澤太郎 砲丸投 5位
金子 寛 砲丸投 7位
鈴木良太 ハンマー投 3位
黒澤太郎 やり投 1位
金子 寛 やり投 6位
男子総合成績 5位

通信制 バドミントン部

④全国高校定通制バドミントン大会
男子団体戦 清水雄幸が参加
2回戦 群馬2-1長崎
3回戦 熊本2-0群馬
○県定通制バドミントン選手権大会
個人戦

男子シングルス 清水雄幸(ベスト8)
男子ダブルス 清水雄幸・石川悟組(ベスト8)
女子ダブルス 須賀美幸・坂本奈緒組(ベスト8)
団体戦
男子 ベスト8
女子 ベスト4

通信制 ソフトテニス部

○全国高等学校定通制ソフトテニス大会群馬県予選
第4位 麻野曜司・小野寛晃
○全国高等学校定通制ソフトテニス大会
男子団体戦
2回戦 群馬1-2鳥根
男子個人戦
麻野曜司・小野寛晃 2回戦進出

○群馬県高等学校定通制ソフトテニス選手権大会
第2位 今泉友輔・関口雄大
第3位 飯塚義男・小野寛晃



囲碁・将棋部

○囲碁
○全国高等学校囲碁選手権群馬県大会
団体(笹口和秀・石関圭輔・野中健太) 優勝
○全国高校囲碁選手権大会群馬県大会
笹口和秀 優勝
石関圭輔 3位
○文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会
団体戦参加 笹口和秀・石関圭輔・野中健太
個人戦参加 笹口和秀
○全国高等学校総合文化祭
団体 石関圭輔
個人 笹口和秀
○将棋
○群馬県高等学校将棋選手権大会
団体戦 男子Aクラス 3位
個人戦 男子Aクラス 準優勝 近藤悠太
○全国高等学校将棋選手権大会
個人戦参加 近藤悠太

映画研究部

○第55回NHK杯群馬県大会出品

合唱部

○第32回全国高等学校総合文化祭ぐんま大会出場
オペラ部門 歌唱「みづち」合唱団
合唱部門 群馬県合同合唱団
群馬県男声合唱団

写真部

○第32回全国高等学校総合文化祭 参加
第14回県高等学校総合文化祭 参加

新聞部

○第22回群馬県高校新聞コンクール
県議会議員賞
○第12回全国高等学校新聞年間紙面審査
優秀賞
○第32回全国高等学校総合文化祭
新聞部門表彰

吹奏楽部

○第31回県アンサンブルコンテスト 銀賞
○第11回県ソロコンテスト
神山孝憲 フルート 金賞
○第49回県吹奏楽コンクール A組 銅賞

鉄道研究部

○第32回全国高等学校総合文化祭 交流会参加
○08頑張るぐんまの中小私鉄フェア 参加
○第14回県高等学校総合文化祭 参加

文芸部

○第3回群馬県高校生文学賞(文芸誌部門)
「高文文芸」優秀賞
3年連続入賞・初の優秀賞
○第23回全国高等学校文芸コンクール
文芸誌部門 出品
(全国コンクール3年連続)

和太鼓部

○第32回全国高等学校総合文化祭ぐんま総文
総合開会式 演奏参加
郷土芸能部門 最優秀賞

物理部

○物理チャレンジ2008に参加

数学部

○第1回全国数学選手権大会 3次予選進出

化学部

○日本化学会関東支部主催
第25回化学クラブ研究発表会 研究奨励賞

マンドリン部

○第32回全国高等学校総合文化祭ぐんま総文
器楽・管弦楽部門 大会参加
○群馬県ギター・マンドリンコンクール
優良賞

第62回定期戦

今年の定期戦において、我々は昨年ジnkスを破った時から目指していた三連覇という目標を達成した。近年ジnkスに阻まれ目指すことすらできなかった偉業を成し遂げたのだ。

しかし、そこに至るまでの過程は決して楽なものではなかった。前哨戦では部対抗の陸上と硬式テニスは勝利したもの、お家芸の水泳や硬式野球、軟式野球、卓球は健闘むなしく敗北し、昨年と同じく負け越しという状態でのスタートとなった。だが、絶対に三連覇を成し遂げる、という熱い気持ちはそんなことをものともしなかった。

本戦では、偉業達成のため戦う高々生、これ以上負けられない前高生、双方に勝たなければならぬ理由がある中、一般対抗、部対抗各々白熱した戦いが繰り広げられた。どの試合も、どちらが勝つもおおしくない素晴らしきものだったが、高々が4.5点差で勝利した。

三連覇、長い歴史をもつ定期戦の中でもそうあることではない。第62回定期戦はそれを達成し伝説となった。しかし、これはまだ新たな伝説の始まりにすぎない。後輩達が高々の勝利の伝説をさらに築き上げてくれることだろう。

第62回定期戦実行委員長 森 圭広

進路状況 (全日制) ()内は現役

大学	年次	18年	19年	20年	大学	年次	18年	19年	20年
北大		9(7)	8(5)	4(3)	慶應大		73(66)	48(33)	71(50)
東北大		42(38)	29(27)	35(34)	早稲田大		67(57)	60(47)	81(60)
筑波大		6(6)	7(7)	11(9)	中央大		104(100)	79(73)	88(75)
千葉大		6(5)	6(5)	15(14)	明治大		112(105)	105(94)	118(98)
群馬大		22(20)	42(37)	29(25)	上智大		6(5)	4(1)	2(0)
(医)		5(4)	6(5)	8(8)	立教大		11(11)	21(16)	25(11)
埼玉大		11(11)	10(9)	9(7)	学習院大		1(1)	3(2)	0(0)
東京大		13(11)	12(7)	13(10)	青山学院大		14(14)	9(5)	15(13)
一橋大		4(4)	1(1)	4(4)	法政大		26(24)	21(18)	35(32)
東工大		3(3)	6(4)	7(4)	日本大		80(70)	95(73)	52(43)
横国大		5(3)	6(6)	8(7)	東京理科大		159(145)	148(137)	159(144)
新潟大		17(15)	18(17)	8(5)	芝浦工業大		59(58)	94(90)	61(59)
金沢大		8(7)	6(6)	10(10)	同志社大		1(1)	1(0)	19(18)
信州大		3(3)	5(5)	3(1)	立命館大		7(6)	18(17)	9(1)
名古屋大		1(1)	2(2)	0(0)	高経大		8(7)	5(5)	11(11)
京都大		3(2)	2(2)	5(4)					

第62回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
0	6	水泳	3	6
		駅伝	1.5	7.5
		綱引き	3	6
		玉入れ	9	0
		ソフトボール	6	3
		長縄	0	4.5
		卓球	3	6
		陸上競技	6	3
		ソフトテニス	3	6
		バレーボール	4	5
6	0	バスケットボール	8	1
6	0	柔道	0	6
6	0	剣道		
6	0	弓道		
6	0	空手道		
3	3	サッカー		
6	0	ラグビー		
0	6	硬式野球		
0	6	軟式野球		
6	0	テニス		
45	39	小計	46.5	48
91.5	高	総合	前高	87

人事異動

(平成20年度)

退任者・転出者

事務長 長井 秀夫 退職

英語 塩原 秋雄 高崎北高

英語 戸塚 泰聖 富岡高(定)教頭

数学 橋本 晃一 桐生高

国語 関口 博士 高校教育課指導主事

事務 多胡 和明 前橋女子高

司書 森田恵里子 前橋女子高

新任者

事務長 松津 弘繁 前橋工業高

数学 内山 一之 前橋高

英語 湯澤 博 前橋南高

国語 関根 秀仁 前橋西高

英語 津久井俊明 沼田高

事務 粕川 知也 藤岡工業高

司書 今井 恵子 盲学校

高高同窓会 予算決算報告

平成19年度 通常会計決算 (平成19年1月1日～平成19年12月31日)				
収入の部				
費 目	平成19年度予算	平成19年度実績	備 考	
前年度からの繰越金	524,615	524,615		
入 会 金	3,100,000	3,150,000	全日制320名、通信制39名	
維持会費	6,000,000	5,794,460	2,013人	
利 息	85	6,129		
雑 収 入	10,000	2,314,300	百年史会計より繰入、名簿売上還元ほか	
合 計	9,634,700	11,789,504		

支出の部				
費 目	平成19年度予算	平成19年度実績	備 考	
会 議 費	1,000,000	998,075	理事会補助、新年総会準備金ほか	
祝 賀 費	800,000	791,377	叙勲記念、卒業九箇ほか	
経 別 費	300,000	230,000	18年度離任職員	
慶 弔 費	200,000	61,410	葬儀供花代ほか	
通信印刷費	420,000	320,755	維持会費納入札状、電話代、郵送料ほか	
旅 費	100,000	100,000	東京同窓会出席者旅費	
会報発送費	2,000,000	1,437,339		
同窓会報費	1,000,000	1,067,631		
事 務 費	1,500,000	1,437,118	事務職員人件費、事務用品ほか	
同窓会長賞費	200,000	4,620	賞状	
補 助 費	1,100,000	1,100,000	図書館、早稲田体育会、ヒューマンサイエンス	
環境整備費	500,000	241,500	指月庭維持管理費ほか	
雑 費	300,000	117,580	維持会費振込手数料、維持会費戻しほか	
予 備 費	214,700	0		
合 計	9,634,700	7,907,405		

差引残高 3,882,099円 (特別会計積立 300万円 次年度繰越金882,099円)

特別会計積立

収入の部		前年度からの繰越金	17,222,859
		平成18年度通常会計より	3,000,000
		利 息	4,106
		合 計	20,226,965
支出の部		創立110周年記念事業補助	3,100,000
		差引残高	17,126,965円

平成20年度 通常会計予算案 (平成20年1月1日～平成20年12月31日)				
収入の部				
費 目	平成20年度予算案	前年度予算	増 △減	備 考
前年度からの繰越金	882,099	524,615	357,484	
入 会 金	3,100,000	3,100,000	0	
維持会費	6,000,000	6,000,000	0	
利 息	7,901	85	7,816	
雑 収 入	10,000	10,000	0	
合 計	10,000,000	9,634,700	365,300	

支出の部				
費 目	平成20年度予算案	前年度予算	増 △減	備 考
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0	新年総会準備ほか
祝 賀 費	800,000	800,000	0	
経 別 費	300,000	300,000	0	
慶 弔 費	200,000	200,000	0	
通信印刷費	420,000	420,000	0	
旅 費	100,000	100,000	0	東京同窓会
会報発送費	2,000,000	2,000,000	0	
同窓会報費	1,000,000	1,000,000	0	
事 務 費	1,500,000	1,500,000	0	
同窓会長賞費	200,000	200,000	0	
補 助 費	1,100,000	1,100,000	0	図書館・早稲田体育会・ヒューマンサイエンス
環境整備費	500,000	500,000	0	
雑 費	300,000	300,000	0	
予 備 費	580,000	214,700	365,300	
合 計	10,000,000	9,634,700	365,300	

特別会計積立

収入の部		支出の部	
費 目	金 額	なし	
前年度からの繰越金	17,126,965		
平成19年度通常会計より	3,000,000		
利 息	3,035		
合 計	20,130,000		

第107回高中高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今回の新年総会は、私達78期が担当させていただきますこととなりました。心に残る新年総会になることを目標に、諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備を進めております。懇親会も、楽しい会になりますように企画の準備を進めておりますので、ご期待ください。

同日 平成21年1月31日(土)
時間 午後3時より
場所 高崎ビューホテル
会費 5000円
(当番期78期代表 松浦 秀吉)

○維持会費の納入について

平成21年度の維持会費の納入をお願いいたします。納入については、同封の振込取扱票(加入者名一群馬県立高崎高等学校同窓会)もお使いいただけますが、ATMのご利用をお願いいたします。

■編集後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第42号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださりまして、まことにありがとうございました。(本部幹事会)